

もっと知りたい、きよせの暮らし

more!

KIYOSE City Promotion Magazine

No.

08

2025.11

きよせ市民まつり
～君の笑顔に逢える せせらぎのまち 清瀬

まちににぎわい、
きよせ市民まつり

「まつぼくる」がひらく未来／沿線連携の未来／きよせの防災最前線／
平和祈念事業／キヨセケヤキロードギャラリー／KIYOSE REPORT／
清瀬市観光協会の推し！

左から音威子府村・遠藤村長、津別町・佐藤町長、澁谷市長、北塩原村・遠藤村長

TAKE FREE

03 5つの自治体と連携 ひろがるまちの輪



今年のきよせ市民まつりにはフレンドリータウンや交流地域からの出店が集まりました。北海道津別町の人気スイーツ「クマヤキ」をはじめ、福島県北塩原村の新米や農作物、北海道音威子府村の工芸品など、各地の味覚が勢ぞろい。行列ができるブースもあり、来場者は清瀬にしながら旅気分を楽しみました。まちとまちが支え合い、笑顔でつながる、そんな清瀬らしさが感じられる交流となりました。

02 親子でわくわく ミニSLとボンネットバス



けやき通りには、子どもたちに人気のミニSLとボンネットバスが登場しました。ミニSLは約100mのレールを走り、乗客たちの笑顔がはじけます。長野県坂城町からきた昭和レトロなボンネットバスは、けやき通りから市役所通り、志木街道をゆっくりと周遊。30分間隔で運行され、車窓から見える秋のまちなみを楽しむ親子連れの姿が印象的でした。懐かしさと楽しさが交差する、まつりならではの特別な体験です。

05 まちの新しい顔、誕生 きよせ市観光大使



これまで活動してきた「清瀬親善大使」が、新たに「きよせ市観光大使」として生まれ変わりました。ステージでは任命式が行われ、4人の観光大使が登場。会場からは温かい拍手が送られました。任命状には「清瀬市の交流人口の増加、地域の活性化及びシビックプライドの醸成に向けた活躍を期待します」との言葉が添えられています。清瀬の魅力を伝える新たな担い手として、これからの活躍に期待が高まります。

04 清瀬の歴史を体感 受け継がれる下宿ばやし



市指定無形民俗文化財の「下宿ばやし」が、今年もまつりを盛り上げました。江戸時代から続く伝統の音色がけやき通りに響き渡ると、足を止めて見入る人の輪が広がります。威勢のいい太鼓や笛の音、華やかな囃子連の掛け声に、清瀬の歴史と誇りを感じるひととき。世代を超えて受け継がれてきた地域の文化が、まちの賑わいの中でも今も息づいています。



踊って
食べて
出会って

まちににぎわい、
きよせ市民まつり

/2025\

清瀬の秋を彩る恒例行事「きよせ市民まつり」。43回目を迎えた今年も、けやき通り一帯が笑顔と活気に包まれました。おいしい匂いと太鼓の音が通りを満たし、子どもから大人まで思い思いに楽しむ姿があふれました。まちがひとつに染まった、にぎやかな秋の一日をふりかえります。



01 まちがひとつになる 市民が主役のステージ

今年の市民まつりでは、例年のメインステージに加えて第2ステージが新設され、より多くの市民団体や個人が日頃の成果を披露しました。太鼓や民謡、ヒップホップやフラダンスなど、多彩なジャンルが次々に登場。観客の手拍子や歓声が通りに響き、ステージと客席がひとつにつながる瞬間も。清瀬らしい温かさとエネルギーに満ちた、笑顔あふれるステージとなりました。

来年2月に誕生する複合施設「まっぼつくる」。清瀬の自然や歴史を受け継ぎ、誰もがのびのび過ごせる場として準備が進んでいます。今回は、開館に向けて少しずつ形になってきた新施設を、ひと足早く紹介します。

ほしい。」と市の担当者は話します。

計画は令和3年度から始まり、市民ワークショップやパブリックコメントなどを通じて意見を反映させてきました。見学会では「小学生の息子が楽しく利用できそうで楽しみ」「大人も十分楽しめそう」といった期待の声が寄せられています。

「市民の皆さんに愛される施設になつてほしいという思いで進めてきました。地域の皆さんが気軽に立ち寄り、のびやかに過ごせる場になれば」と市の担当者。清瀬の自然や歴史を受け継ぎながら、新しい交流や学びが生まれていく。まっぼつくるは、そんなまちの未来をひらく場所を目指します。

夢空間復活プロジェクト 第2弾クラウドファンディング実施中

豪華客車「夢空間」が再び蘇ろうとしています。今年1月の移設と外装修復を経て、その姿が現れました。現在、内装修復に向けた第2弾クラウドファンディングを実施中。期間は11月30日まで。清瀬の新しい風景となるこの車両をぜひ応援してください。

クラウドファンディング 詳細ページはこちら▶



検討しているところです。

自然の中で のびやかに過ごす場所

施設内には、外でお茶を飲みながら本を読めるテラスや、ピアノ・鏡・防音設備を備えた会議室など、多世代が自由に利用できる工夫が随所にあります。「外で公共の本を読める場所はまだまだ少ないので、清瀬の豊かな自然を感じながらお茶や読書を楽しんで



地域の自然や歴史をふまえた愛称「まっぼつくる」

来年2月1日にオープンを迎える複合施設「まっぼつくる」。南部児童館、南部図書館、梅園地域市民センターの3つの機能を備えた、清瀬市の新しい交流拠点です。

愛称は市民の皆さんからの公募で決まりました。市内外から多くの応募があり、その中から選定委員会で選ばれたのが「まっぼつくる」。横文字ではなく、子どもから高齢者まで分かりやすいひらがなにしたいという意見もある中で、北部地域の児童センター「ころぼつくる」と対になる名前として親しみやすいこと、また松林が多い地域性にも合っていることが評価されました。

かつてこの地には、雑木林の中に建てられた結核療養所があり、当時のアカマツが多く残ることから、建物は木を避けるように設計されています。愛称は限研吾建築都市設計事務所にも共有され、現在施設のロゴを



公園テラス
公園を眺めながら飲食もでき、お話がはずむテラスです。



読書テラス
自然を感じながら読書ができます。



2F



エントランスホール
おしゃべりしたり、ゲームをしたり、読書をしたり...思い通りに過ごせるのびやかな空間。

子ども図書コーナー
明るい陽光の中でゆっくり読書を楽しめます。



1F

多目的スペース



多目的スペース

図書館カウンター

図書館

読書テラス

ルームA

ルームB

ルームB

ルームC



エントランスホール

防音室

エチュード 梅園 (学習室)

事務室

子ども図書コーナー



エチュード 梅園

だれもがのびのび過ごせる場所／

「まっぼつくる」館内案内

図書館や児童館などがつながる空間の館内レイアウトを、完成パースとともにご紹介します。



屋内ひろば
身体を使って遊んだり運動ができるスペースです。

歩みでたどる まっぼつくる誕生までの10年

令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成29年度	平成28年度
●複合施設の愛称公募・決定 ●工事現場見学会実施	●工事着手 ●児童生徒による工事現場見学会実施	●実施設計の開始 ●中間報告会開催(2回)	●基本設計および実施設計業務委託プロポーザル実施 ●基本設計の開始 ●市民ワークショップ(計2回)開催	●市民ワークショップ・検討委員会・パブリックコメント実施 ●清瀬駅南口地域児童館整備基本計画策定	●「清瀬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」改訂 ●「清瀬市公共施設個別施設計画」策定 ●「清瀬市みどりの基本計画」改定	●「清瀬市公共施設再編計画」策定	●南口児童館についての市民意見交換会(計2回)開催	●「清瀬市公共施設等総合管理計画(基本方針編)」策定



サミットデーと
記念トレインがつなぐ
110年の軌跡

西武線がひらく 沿線連携の未来



04

西武線沿線サミット
自治体の魅力発信
プロモーション

試合開催中、ベルーナドーム内の大型モニターテレビジョンに、西武線沿線サミット加入自治体である豊島区・清瀬市・所沢市・飯能市・横瀬町・秩父市それぞれのPR動画が映し出されました。

清瀬市のPR動画は、市内を彩る桜並木や新緑、夏にはひまわり畑など、清瀬の豊かな自然が美しく描かれ、来場した多くの観客に清瀬市を知っていただく貴重な機会となりました。



01

各自治体のマスコット
公式キャラクターが
勢揃い

ベルーナドーム場外に設けられた特設ブースには、各自治体を代表するキャラクターたちが大集合。豊島区の「としまなまる」、清瀬市の「ニンニくん」、所沢市の「トコロん」、飯能市の「夢馬（むーま）」、横瀬町の「ブーさん」、秩父市の「ボテくまくん」と「ぶめるちゃん」が来場者をお迎えしました。沿線それぞれのまちの個性と魅力が一堂に会し、子どもから大人まで笑顔あふれる交流のひとときとなりました。



03

子供たちが
セレモニアルピッチと
フラッグ応援隊に参加

西武線沿線サミット自治体に暮らす小学生30名が、ベルーナドームのグラウンドでセレモニアルピッチとフラッグ応援隊に参加しました。堂々とした投球や、力いっぱいの旗振りに大きな拍手が送られ、スタンドの観客からも温かい声援が。西武線沿線のまちを代表して子どもたちが一体となり、選手たちとともに試合を盛り上げました。



02

特設ブースで
各自治体の魅力を
発信

場外エリアには、6自治体の特設ブースが並びました。観光ガイドやマップ、特産品など、それぞれのまちの魅力を紹介。清瀬市からは「きよせ棒」や清瀬駅開業100周年記念グッズも販売され、多くの来場者が手に取りました。沿線をめぐる楽しさや地域の個性がぎゅっと詰まったブースは、まさに「まちのアンテナショップ」のような賑わいを見せました。

NEWS TOPICS

SI
15

「武蔵野鉄道開業110周年トレイン」の
出発式を池袋駅で開催

10月22日から1ヶ月程度運行予定



左：清瀬市長 右：西武鉄道株式会社 小川社長

池袋線の前身・武蔵野鉄道の開業110周年を記念し、特別列車「武蔵野鉄道開業110周年トレイン」が華やかに出発。池袋駅で行われた出発式には、豊島区から秩父市まで沿線10自治体の首長が参加し、沿線の絆を象徴する門出となりました。先頭車両には、公募65作品の中から選ばれた記念ヘッドマークを掲出。さらに、全車両の中吊り広告が各自治体の観光地や特産品、文化行事をテーマに彩られ、まるで「走る沿線ギャラリー」のよう。車内に一歩入ると、まちの風景が次々と現れ、沿線を旅しているような臨場感が広がります。

110年前の開業当時から、人々の暮らしを支え続けてきた西武池袋線。節目の年を迎えた今、過去と未来、そして地域をつなぐレールの意味をあらためて感じさせる記念の一日となりました。

清瀬市の中吊りは、各車両の3列目。ご乗車の際はぜひご覧ください。

いざという時に強いまちへ

きよせの

防災最前線

清瀬市では、もしもの時に備えた新たな防災対策が進んでいます。自走式水洗トイレカーの導入や、家庭でできるローリングストックなど、安心を支える取り組みを紹介します。

移動できるトイレカーで
安心を届ける

全国で災害が相次ぐなか、清瀬市でも「もしもの時」に備えた防災対策の強化が進んでいます。なかでも注目されるのが、新たに導入された自走式水洗トイレカー（右下写真）です。

「避難所を開設しても、必ず問題になるのがトイレなんです。衛生面やプライバシーの確保など、現場では課題が多い」と防災防犯課の担当者。市ではこうした課題を踏まえ、清瀬市清掃事業協同組合と協定を結び、災害時にトイレカーを活用できる体制を整えました。

発災時は避難所等での利用を想定し、平時は地域防災力の向上にも役立ちます。「市民まつりでは実際に使用していただきました。見て知ってもらうことで、清瀬にこういう備えがある」と感じてもらえたら」と市の担当者は話します。必要に応じて他自治体への派遣も可能で、移動できる特性を活かして支援にも対応します。

トイレカーのデザインは、災害時の避難所で少しでも明るい気持ちになってもらえるような明るいデザインにしました。



温水洗浄
便座付き 自走式水洗トイレカー

「食」で命をつなぐ
3日間の備え

清瀬市の備蓄食料は、避難生活を支えるもう一つの柱です。「発災後3日間は人命救助が優先されるため、食料などの支援が十分に届かない期間となります」。防災防犯課では、約1万人・3日分を目安にアルファ米、缶入りパン、味噌汁、ビスケット、保存水などを備蓄しています。

備蓄食料は毎年更新し、期限が近い

ものは防災訓練やイベントで配布。市民団体とも連携し、地域での試食やローリングストックの啓発にもつなげています。

自分ごととして備える
ローリングストック

「大切なのは、自分の分は自分で用意するという自助の意識です。市の備蓄だけに頼らず、家庭でも缶詰やレトルト食品などを常備し、普段の食事で使いながら更新していく、ローリングストック（上図）を意識してほしい」と担当者は語ります。

また、必要な備えは家庭によって異なります。「ペット用品や薬、乳幼児用品など、それぞれの事情に合わせた準備をしてほしい」と話します。近年は「避難所に行くことだけが避難ではない」という考え方も広がっており、在宅避難や要配慮者への支援にも力を入れています。すべてを完璧に備えることはできませんが、こうした視点を持つことが安心につながります。

トイレカーの導入もその「災害の備え」のひとつです。防災は、特別なことではなく日常の延長にあります。市と市民が一緒に「備えるまち」を育てていくことで、清瀬の防災対策をこれからも強化していきます。

日常のなかで少しずつ備える。いつもの食卓がもしもの安心につながる。

ローリングストック

非常食を“しまい込む”のではなく、ふだんの食事に取り入れながら少しずつ入れ替えていく—それが「ローリングストック」という考え方です。使い慣れた食材を備えておけば、いざという時も無理なく調理できます。

ストックする

普段から少し多めに、食材や加工品を備えておく。



買い足す

使った分だけ補充し、いつも一定の量を保つようにする。



食べる

ストックした食材を日常の食事でおいしく消費する。



市の備蓄食料の一例

アルファ米



非常用5年保存水



即席味噌汁



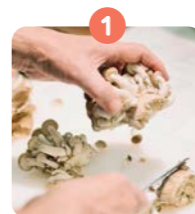
災害備蓄保存用パン



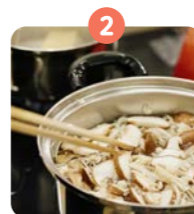
アルファ米使用 混ぜご飯

材料

- アルファ米 3袋
- 水分（炊飯用）540cc
- 油揚げ 1/2枚
- しめじ・えのき茸・舞茸 各1パック
- ゆずの千切り（あれば）
- 調味料（酒 大さじ3、みりん 大さじ3、醤油 大さじ2、昆布だし顆粒 1パック、水 大さじ4）



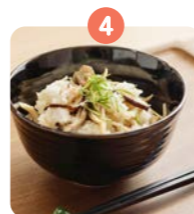
椎茸は薄切り、油揚げは湯通しして刻む。しめじ・マイタケは石づきを除きほぐし、えのきは根元を落として半分切に切る。



鍋で湯を沸かし、具材を30秒ほど霜降りしてアクを抜く。調味料とともに中火で煮込み、汁気が少し残る程度で火を止めて器に取る。



アルファ米を戻さず炊飯器に入れ、水を加えて通常通り炊く。
[水の目安]
1袋200cc 2袋370cc 3袋540cc 4袋700cc

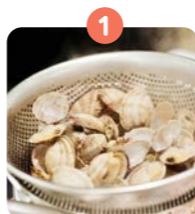


炊き上がったごはんは煮たきのこと汁を混ぜ、蓋をしてなじませる。器に盛り、あればユズを添えたらできあがり。

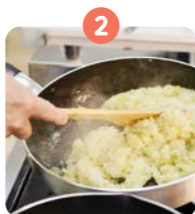
アルファ米の白がゆ使用 あさりのリゾット

材料

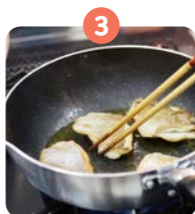
- アルファ米 白がゆ 4袋
- あさり 200g ●水 600cc
- 白ワイン（なければ酒）30cc
- 玉ねぎ 1/2個
- 鯛切り身 40g×4
- 長ネギ 1/2本 ●浅葱 少々
- 調味料（オリーブオイル80cc、塩・胡椒 適量、パルメザンチーズ 50g、バター 40g）



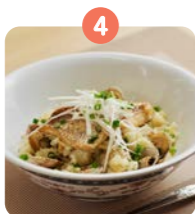
あさりに水を加えてゆっくり火を入れ、出汁を取る。あさりと出汁を分け、身は取り出し、出汁は濾してリゾット用に使う。



玉ねぎを炒めて白ワインとアルファ米を戻さず加える。あさりの出汁を数回に分けて注ぎ、混ぜながら約20分煮る。火を止めた後味を調える。

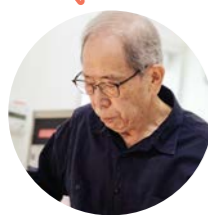


鯛の切り身に塩、コショウをふり、オリーブオイルを熱したフライパンで両面にこんがり焼き色がつくまで焼く。



仕上げにリゾットに少量の水を加え温め、器の中央にこんもりと盛る。上に鯛をのせ、白髪ねぎを飾って浅葱を振りかける。

このレシピを
教えてくれたのは



八芳園・元常務取締役
総料理長
森田 薫先生

作ってみよう！

防災レシピ

「そりのあるかたち'90」 澄川喜一

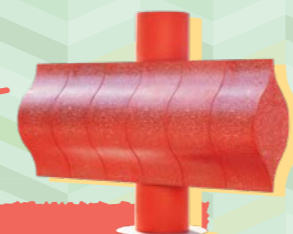
清瀬に長年住んでいた名誉市民である彫刻家澄川喜一による「そりのあるかたち」シリーズの一作。日本独自の「そり」の美をテーマに、張りつめた緊張と静けさを同居させています。



キヨセ ケヤキロード ギャラリー

「標甲」 清水九兵衛

体に馴染むような造形を好む作家らしい、抽象的な発想から生まれた作品。通りの三叉路に立ち、道ゆく人の目印のように佇んでいます。



「追想……町をゆきて」 マリオ・チェロリ

イタリア出身の世界的作家による作品。幼い頃から魅せられてきた「馬」を題材に、人間精神の躍動と生命の連続性を象徴的に表しています。



「花のころ」 城田孝一郎

清瀬在住の作家による素朴な人体像。やわらかな量感と静かな仕草が、通りの風景に溶け込みながら、見る人に親しみを感じさせます。

きよせの人たちが選ぶ この彫刻が好き！

清瀬の通りに立つ彫刻たちは、まちの風景のひとコマ。季節のうつろいの中で表情を変えながら、今日も静かにまちの時間を見つめています。通りを歩けば、きっと「推しの一体」に出会えるはず。



「いちじく」 掛井五郎

大胆さのなかにユーモラスさを感じさせる造形。作者の心の様子が作品に現れ、見る人の想像を誘う不思議な存在感を放っています。

どこにあるの？



作品マップはこちら



彫刻は、清瀬駅北口から市役所方面へ続くけやき通り沿いに点在。郷土博物館では地図を無料配布しているので、お気に入りの一体を探してみよう。

戦後から80年 祈りをかたちに

きよせの 平和祈念 プロジェクト

広島市の平和記念式典で届けられた折り鶴を再利用し、清瀬市が障害福祉施設と協力して製作した「おりづるコースター」。さらに、広島で平和学習に取り組む市内の児童生徒による「ピース・エンジェルズ」の活動など、清瀬の平和祈念事業を紹介します。



おりづる コースター

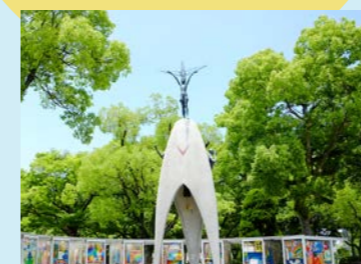
手のひらに広がる平和の祈り

清瀬市では、平和祈念事業の一環として、国内外の平和への想いを身近に感じてもらうために「おりづるコースター」を製作しました。コースターは、広島平和記念公園に国内外から届けられた折り鶴を再利用し、広島県廿日市市の障害者福祉施設「リバティーはつかいち」で再生紙として生まれ変わったもの。直径9cmの丸形で、折り鶴と清瀬市の象徴であるひまわりの絵をあしらったオリジナルデザインです。市内の小中学生へ配布し、家庭でも平和について考えるきっかけとして活用されています。



ピース・ エンジェルズ

「平和祈念フェスタ in 清瀬」で発表。現地で感じた思いを自分たちの言葉で伝えました。



平和の大切さを自分の目で見て、心で感じてほしい……。そんな願いから始まったのが、清瀬市の「ピース・エンジェルズ」です。平成7年度より、市内の小学5年生から中学3年生までの児童・生徒を代表として広島に派遣し、平和記念式典への参列や資料館の見学、被爆者講話などを通して学びを深めています。現地学習後は、体験をまとめたスライ

未来へつなぐ平和の学び



KIYOSE REPORT #01

新たな地域振興の取り組み 「クラフトな夜」に 込めた想い

清瀬市観光協会が主催する「クラフトな夜」は、市役所4階の展望ロビーを夕暮れから特別開放し、クラフトジン、日本酒、テキーラ、カクテルと、回ごとにテーマを変えて全4回開催。清瀬ゆかりの酒や地元食材を味わいながら、職人とお酒に造詣の深いゲストたちのトークに耳を傾ける時間が流れました。

清瀬には飲食店が多く、夜のにぎわいづくりに潜在的な力があります。「お酒は単なる嗜好品ではなく、地域を語る文化的な入り口。日本酒やクラフトドリンクを通じて清瀬の魅力を発信したい」と観光協会は話します。

第1夜は「クラフトジン」をテーマに、市内カフェ「CHACOT COFFEE」中本代表とジン専門メディア「ジンラボ ジャパン」佐藤代表を迎えて開催。清瀬産の蜂蜜を使った「きよはちジン」



の誕生秘話が披露されました。続く第2夜は「日本酒」。豊島屋酒造の田中社長が登壇し、日本酒「きよせ」の新ラベルを発表。市の花・木・鳥をモチーフにしたデザインに「まちの誇りを託した」と語りました。トーク後は試飲やペアリングフードの時間が設けられ、参加者同士の会話が弾みました。

来場者からは「今後も前例にとらわれず新しいことに挑戦する市役所であってほしい」「地域産業の振興につながる取り組みを応援したい」との声が寄せられました。単なるお酒のイベントに留まらず、清瀬市への郷土愛が広がります。

「クラフトな夜」は、市役所という公共空間を地域振興に活用する新たな取り組みでもあります。地域産品「きよせ棒」「やさいあられ」「キヨセ ゴーゴーカレー」の販売も行い、「清瀬まん」や清瀬産の生乳から生まれたチーズなど、地元の味とお酒のマリアージュを提案。昼とは違う“夜の清瀬”の魅力を感じられるひとときとなりました。

清瀬市観光協会の お 推し！



純米酒「きよせ」
180ml 380円(税込)

新しいラベルで、清瀬の香りをもう一杯

清瀬の名を冠した日本酒が、令和7年10月に装いも新たに登場しました。新しいラベルデザインは、清瀬育ちのグラフィックデザイナー・Fumingさんによるもの。武蔵野台地の地下水を、深さ150mの井戸から汲み上げて仕込む東村山市の豊島屋酒造の日本酒は、豊かな香りとすっきりとした味わいが魅力です。純米酒・純米吟醸・本醸造辛口の3種に加え、手軽に楽しめる180mlの純米酒も新登場。清瀬の風土を感じる一杯を、ぜひご家庭でもお楽しみください。

【日本酒「きよせ」販売箇所】

- ・加寿屋酒店 ・藤小西 元町店
- ・セブン-イレブン (清瀬松山一丁目店、清瀬野塩一丁目店、清瀬梅園二丁目店、清瀬中瀬五丁目店)
- 【飲食店での取り扱い店舗】
- ・酒膳処 吉家 ・いざかや楽笑 ・のみ処「」。



詳しい情報は
こちら

more! KIYOSE vol.08

発行：清瀬市シティプロモーション課
発行月：2025年11月
問合せ：☎042-497-1808 (直通)
制作：合同会社ハチコク社



清瀬市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



みんなの力で
大江戸線を清瀬市へ

本誌記載内容の無断転載はご遠慮ください。
©2025 more! KIYOSE all rights reserved.

あなたの声をお聞かせください

本誌へのご意見やご感想、
気になる情報や見てみたい企
画も募集中です。これまでの
号も合わせてご覧ください。

ご回答は
LoGoフォームへ

バックナンバーは
こちら

